

平成25年度

事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

学校法人 高野山学園

目 次

I. 法人の概要	1
1. 法人の目的	1
2. 設置する学校の所在地等	1
3. 設置する学校・学部・学科等	2
4. 入学定員及び学生数	2
(1) 高野山大学	2
(2) 高野山高等学校	3
(3) 高野山幼稚園	3
5. 役員・教職員数	3
(1) 役員	3
(2) 教職員数	3
II. 事業の概要	5
1. 高野山学園法人本部	5
(1) 事業の概要	5
(2) 今後の課題	6
2. 高野山大学	8
(1) 事業の概要	8
(2) 今後の課題	21
3. 高野山高等学校	22
(1) 総論	22
(2) 現状	22
(3) 平成 25 年度事業計画	22
(4) 事業の概要	23
4. 高野山幼稚園	28
(1) 事業の概要	28
(2) 今後の課題	29
III. 財務状況	30
1. 平成 25 年度の財務状況	30
(1) 資金収支計算書	
(2) 消費収支計算書	
(3) 貸借対照表	
2. 高野山学園 資金収支計算書	32
3. 高野山学園 消費収支計算書	33
4. 高野山学園 貸借対照表	34

I. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

2. 設置する学校等の所在地

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2922	事務局長：和田友伸
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2921（代）	学長：藤田 光寛
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL : 0736-56-2204（代）	校長：岡本 彌久
高野山幼稚園	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL : 0736-56-2320	園長：倉岡 弘叔

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等			
高野山大学	文学部	密教学科		
		スピリチュアルケア学科※1		
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程	
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程	
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）	
別科				
高野山高等学校	全日制課程 普通科			
	全日制課程 宗教科			
高野山幼稚園				

※1 : 平成22年度より募集停止

4. 入学定員及び学生数（平成25年5月1日現在）

（1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	50	26	200	149
	スピリチュアルケア学科				
	計	50	26	200	149
大学院	密教学専攻				
	修士課程	13	4	26	19
	博士後期課程	3	0	9	5
	修士課程（通信教育課程）※1	20	21	40	145
	仏教学専攻				
	修士課程	8	1	16	2
	博士後期課程	3	0	9	1
	計	47	26	100	172
	別科	30	4	60	4

※1 : 5月1日現在につき、通信教育課程は前期セメスター入学生数

(2) 高野山高等学校

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	36	360	115
宗教科	20	10	90	27
計	80	46	450	142

(3) 高野山幼稚園

区分	入学定員	入学者数	収容定員	児童数
	30	21	30	21

5. 役員・教職員数（平成 25 年 5 月 1 日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	庄野 光昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員

①法人本部

区分	専任職員
事務局	1

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1 ※1	1 3	2	4	4 6

区分	専任職員	契約職員	嘱託職員
事務職員	1 1	8	2

※1 は内数。

③高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1 ※1	1 ※2	1 5	1 2

区分	専任職員
事務職員	1 2

区分	非常勤職員
事務職員	2

※1 ・※2 は内数。

④高野山幼稚園

区分	園長	専任教諭	契約職員
教育職員	1	6	2

Ⅱ. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部

平成23年4月から本格始動した法人本部では、学園全体の経営方針を“学生・生徒募集に向けた魅力ある学校づくり”と定め、特に大学部門・高校部門の改善・改革案として、各種の事業計画・立案（P）・運営（D）を行なった。今年度はそれに基づき新たな動きが見られた。

今まで主として経費削減による収支の均衡化と収入と支出の均衡の確保に努めてきたが、平成25年度は引き続き支出の削減に努めるとともに、支出の削減すなわち縮小均衡のモデルだけでは、経営の健全化が図れないとの認識の下、新たな展開も見られた年であった。

今後は、中長期の収支計画を立案し、常にそれを念頭に置くことで、毎年度の予算執行状況の管理を徹底しつつ、収入の増加に向けた取り組みを、継続して進めるとともに経営の健全化を進めたい。

（1）事業の概要

①経営改善に向けた取り組み

■就業規則等の改正（一部先行）

既に平成23年4月1日より、先行実施を行なった給与規則（別表のみ）・退職金規則について、事業計画よりは遅れたが、就業規則・給与規則本則の成案のチェックなど実施に向けての準備を進めた。

②“魅力ある学校づくり”に向けた取り組み

■法人本部方針の策定

平成23年度より、経費削減だけでなく、学生・生徒募集の強化に向けて魅力ある学校づくりのために、今まで継続的に実施されてきた経費削減方針だけでなく、必要な部分には投資を行うということで、設備の改善にも取り組んだ。

- ・大学部門：①高野山専修学院の修業年限への組入れ（平成24年度入学生に対し2年次に実施することを決定）
②高野山霊宝館所蔵の文化財調査への協力（平成24年度から実施、その後霊宝館で大学の講義を実施している）
③学習・就職支援室の開設（平成24年度から開設済み）

④トイレの改修（25年度内に着手）

⑤土足化の検討（26年度からの実施に向けての準備）

・高校部門：①紀ノ川筋へのスクールバスの運行（平成24年度から実施）

②通信教育制度の検討（検討継続中、26年3月の理事会で決議）

■施設設備の改善計画

従来は支出の削減に重きを置き、施設設備の改善は最小限にとどめられてきたが、魅力ある学校づくりのために、その手始めとして大学においてはトイレの改修を行い、平成26年度からの土足化の実施に向けての準備を進めた。

■山内諸機関との連携

上記の方針を実行するため、従来は独自に活動していた高野山専修学院・高野山霊宝館との連携強化を行なった。高野山専修学院については、専修学院での1年間を高野山大学の修業年限（第2年次）に組入れることになった。この連携により、寺院後継者ならびに僧侶希望者に対し、高野山大学か専修学院かという2択状況が軽減されている。高野山霊宝館との連携では、霊宝館所蔵の文化財調査に高野山大学が協力することで、霊宝館の調査の効率化を図るとともに、高野山の文化財を用いた高水準の研究の実施および学生への教育としての還元を期待される。

（2）今後の課題

①管理・運営

■諸規程の整備

平成22年度に変更された寄附行為・給与規則・就業規則等の各種規程と、旧規程の整合を図る作業が未だ完了しておらず、労使間の締結を見ていない。この点について、平成26年度早期に締結すべく準備を進めた。

また、大学においては、副学長を特命係に任じ、他の諸規程の整備を進めている。

■中長期計画の作成

中長期計画の作成については、まずは大学から着手し、大学においては大学基準協会の助言も受け、自己点検評価検討委員会において中長期計画の作成を進めた。

■法人本部の強化

学校法人高野山学園として、法人本部機能を強化し、幼稚園、高校、大学が一体となって学園としての組織を強化し諸規則の一本化の推進及び経営の健全化に取り組むべく法人本部職員の増員などの強化策を進めている。

②学生・生徒募集に関する取組み

■大学部門・高校部門における広報活動の見直し

従来は各部門単位で実施していた広報活動・広告事業を、法人本部に資金を集めて重点的に実施する必要がある。このことにより、大学部門・高校部門・幼稚園部門の広報活動の効率的な実施を目指す。

2. 高野山大学

平成23年4月に藤田新学長体制で始動した大学部門では、平成23年度以来、教職員全員が、本学の経営的課題に関する認識を共有し、経営改善・改革の指針を共有して、教育の質的向上、経費削減、収益向上等の各課題に取り組んだ。寄附講座、生涯学習講座などが個人の寄附や企業からの協賛を得ていることや、それらの講座への参加者数などから、本学が行っている学問領域に関する社会からの関心は決して低くはないといえる。ただし、本学の財政状況は、学生数の減少が大きく影響しており、歳入減に伴い必然的に歳出減を強化していかなければならないという状態にある。

なお、平成25年度には、平成24年度より開始された、故 小川修平氏の遺志として、「宗教と科学」をテーマとした研究・公開講座などを拡充して継続している。

また、高野山専修学院・高野山霊宝館との連携、学習・就職支援室の開設など、“魅力ある学校づくり”にむけた取り組みを継続した。

(1) 事業の概要

①教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み

■大学基準協会の大学評価

平成22年度に提出した報告書に基づき、平成23年9月29日に、財団法人大学基準協会の実地調査を受けた。結果、平成24年3月9日付で、平成27年3月31日までの3年間の期限付きではあるものの、大学基準協会の認定を受けた。

なお、その大学基準協会の認証評価における結果報告書では、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築、の4点が至急改善されるべき点として挙げられていた。この4点に対処するために、学内委員会である「自己評価点検検討委員会」において、検討を重ね、②学内諸規定の整備は藤吉副学長をリーダーとする特命係で検討を進め、整備に着手している。③財務改善計画の策定は「自己点検・評価検討委員会」において大学部分から検討を進め、平成26年4月に大学基準協会に中長期計画（大学部分）を提出すべく作業を進めた。財務改善計画は、高等学校や幼稚園の部分も含めたものが必要となるため、準備を進めつつある。④内部質保証システムの構築は、教育・研究水準の維持・向上のために PDCA サイクルに関する基本方針が作られ、PDCA サイクルを回すように実施中である。

■高野山専修学院との連携の推進

平成23年度に高野山専修学院の期間を高野山大学第2年次に組み入れることについて検討に入っていたが、平成24年度入学生から実施することになった。寺院後継者や僧侶希望者に対し、他大学から専修学院入学する場合よりも、高野山大学に入学した場合のメリットがある点を明確にするために大学側で授業時間割での配慮や学生への授業料の1/2の減免を行ない、本学に入学する学生に、より一層充実した教育を提供している。平成25年度は、2回生39名のうち、7名がこの制度を利用し、6名が無魔成満した。

■高野山霊宝館との連携の推進

法人本部の方針に基づき、高野山霊宝館との連携を目指して協議を行った。平成24年度前期から引き続き、講義ならびに霊宝館に寄託されている文化財の調査を、大学と霊宝館との協力体制の下、実施している。

高野山専修学院との連携とあわせて、高野山でなければ出来ない“学び”の構築を企図し、今後も山内諸機関との連携を継続する。

■「学習・就職支援室」の運営

平成24年4月に学生の学習や就職をサポートする目的で学習・就職支援室を開設された「学習・就職支援室」を平成25年度も引き続き、運営した。従来、本学ではあまり重要視してこなかった就職を、密教学科の学習の最終成果と位置づけ、大学での“学び”を通して社会人基礎力を身に付けさせることを目指している。また、ハローワークやNPO法人就職支援ネットワークとも連携してキャリアアップ講座を運営した。

■山内寺院の貴重図書の調査

高野山竜光院文書については、前年度に引き続き、高野山霊宝館との連携事業において、霊宝館に寄託されていた竜光院文書を借り受け、目録作成を大学にて行っている。

■薬物等乱用防止対策啓発運動

平成21年7月に薬物等乱用防止対策本部が設立されて以来、全学説明会や特別講演会を実施してきたが、平成25年度においても、11月報恩日講演におけ

る薬物乱用防止講演（橋本市保健所）をはじめ、日常の説明や掲示など、学生への啓発活動を継続的に実施した。

■保護者懇談会の実施

平成 15 年度より、新入生の保護者に向けての保護者懇談会を、入学式後に実施しているが、これに加えて平成 24 年度からは、在学生の保護者懇談会を実施している。平成 25 年度は、在学生の保護者懇談会の会場を大阪に移して実施した。

保護者に対し、本学の活動について説明するとともに、在学生の日頃の生活や学業の進捗状況、就職・進学などの卒業後の進路について、個別相談の場を設けて相談を受けた。

実施日時：平成 25 年 9 月 14 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分

実施場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

プログラム

開会

副学長あいさつ

山脇雅夫 就職・進路支援室長「今後の就職・進路支援について」

個別相談（希望者）

②東日本大震災に関する取り組み

■東日本大震災復興ボランティア

平成 25 年度も引き続き、教職員から構成されるボランティア班を派遣。

実施日時 平成 25 年 9 月 6 日（金）～9 日（月）

活動場所 宮城県南三陸町

参加者 細川敬真 （学生サポート課）

学生 3 名

③社会貢献への取り組みー公開講座・寄附講座ー

■高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

①講演会：平成 25 年 8 月 10 日（土）、於 ナレッジキャピタルコンベンションセンター

会場：ナレッジキャピタル コンベンションセンター（大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪）

講演：「日本画とその画材－自然の活用と伝統の知恵－」 関出（東京藝術大学教授）

「他者への思いやり－仏教・密教が説く倫理－」 藤田光寛（高野山大学学長）

参加者：266 名

②講演会：2013 年 10 月 13 日（日）12：30～

会場：大阪市中心公会堂大集会室（大阪市北区中之島 1-1-27）

講演：松本紘 先生（京都大学総長）

「科学と思想の相互越境への挑戦」

西川伸一 先生（JT 生命誌研究館顧問）

「ダーウィンが来た：新しい因果性の科学」

村上和雄 先生（筑波大学名誉教授）

「心は遺伝子の働きを調節する」

パネルディスカッション：

中村本然 先生（高野山大学密教文化研究所所長）

西川伸一 先生（JT 生命誌研究館顧問）

村上和雄 先生（筑波大学名誉教授）

棚次正和 先生（京都府立医科大学教授）

生井智紹 先生（高野山大学名誉教授）

参加者：588 名

■高野山大学公開講座

【高野山大学 瞑想実習】

日程：2013 年 10 月 25 日（金）

会場：高野山東京別院（港区高輪 3-15-18）

講師：佐藤隆彦 先生（高野山大学教授）

「真言密教における呼吸の瞑想法－阿息観－」

参加者：27 人

◎大阪【概要】

社会に広く学習機会を提供するための取り組みとして、大阪にて生涯学習講座を開

催している。平成 24 年度まではなんばで開催していたが、平成 25 年度は大阪市北区で開催した。

① 2013 年 7 月 27 日（土）13：00～15：20

会場：梅田センタービル（大阪市北区中崎西 2-4-12）

大学説明会：佐藤隆彦 先生（高野山大学教授）

「高野山大学の教育の特色について」

公開講座：名越康文 先生（精神科医、評論家）

「こころの教育と仏教一心がフッと軽くなる瞬間の心理学―」

参加者：60 人

② 2013 年 9 月 14 日（土）13：00～15：50

会場：大阪国際会議場（大阪市北区中之島 5-3-51）

講師：永田良一 先生（(株)新日本科学代表取締役）

「幸せを育む生き方」

森崎雅好 先生（高野山大学助教）

「『いのち』に対する考え方―生き方としての仏教―」

参加者：83 人

【高野山大学 生涯学習講座 瞑想実習】

日程：2013 年 10 月 18 日（金）

会場：豊中不動尊（豊中市緑丘 2-14-8）

講師：佐藤隆彦 先生（高野山大学教授）

「阿息観の理論と実践―真言密教における呼吸について―」

参加者：30 人

◎福岡【概要】

平成 25 年度は、烏帽子山最福寺法主で本学園理事でもある池口恵観先生の協力を得て、九州地区での社会に広く生涯学習の機会を提供するための取り組みとして、福岡にて公開講座を実施した。

日程：2013 年 7 月 20 日（土）13：00～15：50

会場：福岡朝日ビル（福岡市博多区博多駅前 2-1-1）

講師：池口恵観 先生（鹿児島最福寺住職）

「心の教育の重要性、震災後のケアに必要なこととは」

藤田光寛 先生（高野山大学学長）

「思いやりの心—仏教・密教が説く倫理観から—」

参加者数：92人

■伝統教学復興プロジェクトの実施

平成16年度からはじまった本事業は、高野山真言宗常光院住職、山崎泰廣大僧正を大阿闍梨に、「大日経講伝」「金剛頂経講伝」「两部曼荼羅講伝」「阿字観奥義」を開筵してきた。平成22年度からは、高野山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長、松長有慶大僧正を大阿闍梨に迎えて、「理趣経法伝授並びに理趣経講伝」を、平成24年度から、『大日経』講伝を開筵した。

第三会…平成25年6月17日（月）～6月18日（火）

第四会…平成25年12月9日（月）～12月10日（火）

■高野山学の開講

平成15年7月、調査研究・地域振興・相互施設の活用などで連携することを目的に、高野町との友好協力協定を結び、平成16年4月から、一般の人を対象に、「高野山学」を開講している。高野山学は、真言密教の聖地として独自の歴史と文化を育んできた高野山の歴史を「学び」として体系化するもので、本学教員も講師を務めている。

④高野山大学密教文化研究所の活動

(1) 密教文化研究所研究会

第1回：6月12日（水）於：本学第三会議室

日野西眞定^{ひのよししんじょう}：「高野山の民俗」

第2回：7月24日（水）於：本学第一会議室

井上ウィマラ^{いのうえ}：「解脱/悟りとレジリエンス」

第3回：8月1日（木）於：本学第一会議室

室寺義仁^{むろじよしひと}：「法印」（dharmamudrā）の三特相と菩薩にとっての四つの標語（dharmoddeśa）」

船山徹^{ふなやまとおろ}：「玄奘の「五種不翻」説と音訳の意義」

第4回：10月2日（水）於：密教文化研究所会議室

北川眞寛：「日本密教における六度行について―特に論義書を中心として―」

第5回：11月13日（水）於：本学第一会議室

大塚伸夫：「初期密教の第三期時代における密教形態について」

大柴清圓：「『古今文字韻』について」

第6回：12月11日（水）於：本学第一会議室

鈴木普怜：「文明論としての原発問題 ―宗教者の一視点として―」

静 春樹：「インド仏教金剛乗の解脱システム解明をめざして」

石部道明：「『ガリム』における究竟次第の特色」

第7回：12月13日（金）於：本学第一会議室

森 雅秀：「鶴見大学図書館所蔵の逸見梅栄コレクションにみられる注目すべき作品」

第8回：1月29日（水）於：本学第一会議室

下西 忠：「西国三十三ヶ所の巡礼歌をよみ解く―紀伊国三ヶ寺を中心に―」

加納和雄：「近年の初期ガンダーラ語大乘仏典写本研究について」

―研究紹介と雑感―

森崎雅好：「自殺ハイリスク地で保護された自殺ハイリスク者の特徴」

―自死念慮が消失した事例を通じて―

(2) 東日本大震災支援活動から学ぶ連続講座

第1回：5月29日（水）於：本学第三会議室

広瀬敏通（RQ 災害教育センター代表理事・NPO 法人日本エコツーリズムセンター代表理事）

講題：「復興支援から災害教育へ」

第2回：6月26日（水）於：本学第三会議室

中島聡美（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所成人精神保健研究部犯罪被害者等支援研究室長）

講題：「複雑性悲嘆と災害復興支援活動について」

第3回：7月17日（水）於：本学第三会議室

渡辺久子（慶應義塾大学医学部小児科講師）

講題：「郡山市における子供のこころのケアプロジェクト」

第4回：9月25日（水）於：本学第三会議室

堤 澄子（一般社団法人パストラルケアセンターHUGハウス代表理事）

講題：「被災地におけるスピリチュアルケアの実際」

第5回：10月23日（水）於：本学松下講堂黎明館

石井光太（ノンフィクション作家）

講題：「『遺体』から見えてきた宗教の原点について」

※映画「遺体—明日への十日間—」を上映。

第6回：10月30日（水）於：本学第三会議室

山崎達枝（DMORT 研究会幹事）

講題：「被災地における DMORT 活動の可能性について」

第7回：11月27日（水）於：本学第三会議室

喜多村龍介（六大新報社代表・真言宗大覚寺派大悲王院住職）

講題：「取材を通じて想うこと、伝えたいこと」

(3) プロジェクト「宗教と科学の対話」研究会（大阪ガーデンパレス開催）

第1回：5月26日（日）奥 健夫：意識と生命の科学

第2回：6月16日（日）川田 薫：生命の正体

第3回：8月11日（日）中村本然：真言密教の思想と現代

第4回：11月24日（日）鮎澤 聡：祈り・瞑想の身体基盤

第5回：1月26日（日）棚次正和：超越する実在

—人間の存在構造を問う視点より—

第6回：3月23日（日）室寺義仁：宗教と科学の対話と連携が成立する社会的実践の場

実証部門「いのちと遺伝子」研究会

第1回：12月8日（日）於：横浜市弘明寺

(4) フジキン小川修平記念講座講演会

○10月13日（日）於：大阪中之島中央公会堂

松本 紘：科学と思想の相互越境への挑戦

西川伸一：ダーウィンが来た—新しい因果性の科学

村上和雄：心は遺伝子の働きを調節する

パネルディスカッション：中村本然・棚次正和・生井智紹・西川伸一・村上和雄

(5) 連続講座「真言密教の教えと実践」〈講師：北川真寛〉

募集定員 24 名 全 3 回参加費 1 人 10,000 円

会場：グランフロント大阪ナレッジキャピタル

第 1 回：11 月 21 日（木）心を覚り、身を悟る

第 2 回：12 月 19 日（木）自他共生の瞑想法

第 3 回：1 月 23 日（木）密教占星術

(6) 南山教学研究会（密教文化研究所会議室開催）

第 1 回：11 月 8 日（金）土居夏樹・北川真寛：『宗義決択集』をよむ

第 2 回：11 月 22 日（金）北川真寛：三密具不具

第 3 回：12 月 13 日（金）土居夏樹：理法身説法

第 4 回：1 月 24 日（金）小田龍哉・高柳健太郎：自性会因入

第 5 回：2 月 21 日（金）北川真寛：綵画形像

第 6 回：3 月 14 日（金）小田龍哉・高柳健太郎：「自性身随縁化他」について

(7) 『密教文化研究所紀要』第 27 号の発行（総頁数 260 頁）

執筆者：トーマス ドライトライン兼任研究所員・静春樹委託研究員・北川真寛専任研究員・中谷征充、上野康弘、大柴清圓、徳重弘志、岡田英作の各受託研究員・

以上、8 名。

(8) 『電子版弘法大師全集』・『電子版真言宗全書』・『電子版続真言宗全書』の、平成 26 年 3 月末までの販売累計数

① 『電子版弘法大師全集』 489 部

② 『電子版真言宗全書』 322 部

③ 『電子版続真言宗全書』 298 部

※ 都合、1,109 部

(9) 『電子版弘法大師全集』・『電子版真言宗全書』・『電子版続真言宗全書』等の、平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日～同 26 年 3 月 31 日）販売累計数及び版權料

① 『電子版弘法大師全集』 91 部

- ② 『電子版真言宗全書』 76 部
 - ③ 『電子版続真言宗全書』 81 部
 - ④ 『真言宗古字書資料集』 影印本 1 冊
 - ⑤ 『真言宗古字書資料集』 CD-ROM 1 部
- 以上、①～⑤の版權料:578,333 円

3. 平成 25 年度決算

○平成 25 年度教育研究事業費決算額 4,184,011 円
 (当初予算 6,140,000 円に対して△1,955,989 円の実行)

4. 補助金「特別補助／大学院等の機能の高度化への支援／研究施設運営支援」

○申請額 2,242,000 円 → 補助金額 918,000 円

5. その他

(1) 上記の版權料：578,333 円と補助金 918,000 円と連続講座「真言密教の教えと実践」の受講料 240,000 円と、本山からの震災講座交付金 600,000 円を合算して、2,336,333 円の収益。昨年度決算 4,184,011 円から収益を差引と、実際は 1,847,678 円の支出。

(2) 致知出版社の月刊誌『致知』2013 年 11 号に、村上和雄特別招聘顧問と中村本然所長の対談「生命のメッセージ 63」掲載。

(3) 研究所ホームページリニューアル

⑤平成 25 年度図書館事業報告

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、昨年度に引き継ぎ通常 9 時から 21 時 30 分の 12 時間 30 分間を開館時間とした。通常の利用者への貸出・返却・レファレンスと、資料の購入等の他、図書館ホームページの充実を図り、PDF での一次資料の提供を成した他、下記の特筆すべき事業を図書館では展開した。

① 図書館報『それゆけ!としょかんだより』

毎月、上記の図書館報を発行して、館内では紙媒体でのフリーペーパーで公にして、インターネット上では、図書館のホームページで順次、71 号から 80 号までを

公開した。

そこでは、下西図書館長の論文をはじめ、図書館の近況やニュースを報じた。

② 図書館戸田文化講座開催

平成 25 年度における同文化講座は、下記の 6 回を開催して好評までに終わることができた。参加者は 20 名から 40 名程で、本学教職員・学生だけでなく、広く県外や高野山山麓の橋本市・かつらぎ町・和歌山市からの一般の参加者があった。

第 1 回 「和歌山の文化財 - 世界遺産拡大登録を中心として -」

講師：渋谷高秀(和歌山県文化財センター副主査)

日時：6 月 17 日(月曜日)17 時～18 時 30 分

場所：高野山大学本館 3 階 308 号室

第 2 回 「高野山七口と参詣道について」

講師：入谷和也(元和歌山県教育委員会教育企画員)

日時：7 月 11 日(木曜日)17 時～18 時 30 分

場所：高野山大学本館 3 階 308 号室

第 3 回 「天野丹生都比売神社本殿 - 平成のご造替について -」

講師：結城啓司(和歌山県文化財センター技師)

日時：10 月 10 日(木)17 時～18 時

場所：高野山大学本館 3 階 308 号室

第 4 回 「読書の町、高野町をめざして」

講師：中島紀生(高野町副町長・和歌山県公共図書館協会理事)

橋本奈理加(高野町中央公民館図書室司書)

日時：11 月 19 日(火曜日)17 時～18 時 30 分

場所：高野山大学本館 3 階 308 号教室

第 5 回 「文化財保護行政と世界遺産 - 史跡・遺跡を中心として -」

講師：池田 一城(高野町教育委員会文化財担当)

日時：12 月 13 日(金曜日) 17 時～18 時 30 分

場所：高野山大学本館 3 階 308 号教室

第6回 「西行の「あはれ」-高野山で詠んだ和歌を中心に-

講師： 下西 忠図書館長

日時： 1月15日(水曜日) 17時～18時00分

場所： 高野山大学本館3階307号教室

③ 図書館ミニコンサート開催

平成25年度における同コンサートは、下記の1回を開催して好評までに終わることができた。参加者は30名で、本学教職員・学生だけでなく、広く高野山山麓の橋本市・かつらぎ町・和歌山市からの一般の参加者があった。

第1回 「お箏・三味線コンサート」

演奏： 森崎雅好(本学助教)

梶谷有桜(本学非常勤講師)

山村恵里(本学卒業生)

日時： 11月6日(水)17:00～18:00

場所： 高野山大学図書館閲覧室

④ 図書館茶話会開催

図書館の閲覧室を会場として、本学裏千家茶道部と提携して、平成25年度において下記の3回の同茶話会を開催した。参加者は50人程度で、本学学生や教職員が下西図書館長を囲んで忌憚のない意見交換会ともなった。特に、第2回については、本学学祭とキャンパス見学会とも重なって広く一般からの参加者が見られた。

第1回「図書館茶話会 - 図書館長を囲んで - 」

主催： 裏千家茶道部

後援： 高野山大学図書館

日時： 5月23日(木)17時～18時30分

場所： 図書閲覧室

第2回「図書館茶話会」

主催： 本学茶道部

後援 : 高野山大学図書館

日時 : 11月2日(土)13時～16時

場所 : 図書館2階閲覧室

第3回「図書館茶話会」

主催 : 本学裏千家茶道部

後援 : 高野山大学図書館

日時 : 1月17日(金)17時～18時

場所 : 図書館2階閲覧室

⑤ 他大学・関係団体との提携

4年制の仏教系大学図書館で組織する佛教図書館協会において、平成25年度については研修会当番校を拝命して、同年度研修会の企画立案・運営を本学図書館が一手に引き受けて実施した。詳細な日程等は下記の通りである。

仏教図書館協会研修会の開催

日 程 : 平成25年11月21日目～22日(金)

時 間 : 1日目 13:00～ 2日目 5:55～

研修会会場 : 1日目 高野山大学本館2階第2会議室、図書館、茶室

2日目 高野山大圓院、高野山大学本館2階第2会議室

高野山金剛峯寺、高野山霊宝館

⑥『善本撰輯』の刊行

平成25年度において、実に15年ぶりとなる表記の図書館所蔵の善本図録を公刊することができた。

⑦ 高野山霊宝館との連携

平成24年度に引き続き、同25年度についても、高野山霊宝館から移管の高野山龍光院聖教類の目録作りのための調査・研究を、武内孝善教授を中心とする調査チームを編成して実行した。

⑧ 篠田禹子文庫の整理

平成 25 年度より、表記文庫の整理のための調査チームを、下西図書館長を中心に編成して、整理に着手した。なお、同文庫は東京都足立区在住の篠田禹子氏より寄贈を受けた書画骨董類である。

(2) 今後の課題

大学の改善・改革に向けて

■自己点検・評価検討委員会

平成 23 年度に大学基準協会から指摘された、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築といった点について、「自己評価点検検討委員会」において検討を重ね、②学内諸規定の整備と③財務改善計画の策定については、大学から平成 27 年 3 月 31 日の期限までに指摘点を改善すべく整備を行なっている。

■学生数の確保・教育コンテンツの見直し・学生サービスの充実

学生数の確保に向けて、特に重要視すべきなのが、教育コンテンツが在学生から満足されるものであり得るか、という点である。今後、学生により関心を持って臨んでもらえる教育コンテンツを構築していく必要がある。本学の学生募集のターゲットを 18 歳におくべきかどうか。誰をターゲットに広報・社会発信をしていけば学生数増加につながる可能性があるか。そのための教育コンテンツを構築することに人手と資金を集中する必要がある。

■人間学科の届出による設置（予定）

入学者数の減少が続く中で、より魅力的で従来の寺院関係者を主とした募集ではなくより広く 18 歳を対象とした学生を募集するために、大学で検討を重ね、哲学・歴史学・文学・心理学・社会学を中心に学修する人間学科を文学部内に入学定員 20 名で届出設置するとともに、密教学科の入学定員を 50 名から 30 名に減少することを計画し、教授会、理事会で承認を得た。また、文部科学省からも届出設置が可能と回答をいただいた。平成 26 年度には届出設置の書類を提出し、平成 27 年度から学生募集を開始する予定である。

3. 高野山高等学校

(1) 総論

高野山高校では、平成 25 年度入学者が 46 名であり、目標値の 60 名に届かなかったのは昨年の事件が影響していると思われる。生徒募集に向けた試みは平成 26 年度生徒募集にも継続的に活かされている。と同時に、宗教教育を中心に据えつつ心の教育に力点を置いた指導は、卒業生や保護者から一定の評価を得ており、今後、好転的に生徒募集を進めていく兆しもうかがえる。しかしながら、今後、高野山高校の経営基盤を安定させるためには生徒増を計る努力と従来以上の収入源となる事業として通信制開設の必要がある。

(2) 現状

①高野山高校の生徒数

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
生徒数(宗教科生徒数)	175(39)	167(31)	160(26)	145(23)	143(27)
新入生数(宗教科生徒数)	65(10)	54(8)	56(6)	54(11)	46(10)
高野山大学への進学者数	8	10	9	11	5

②分析

■生徒数の推移

- ・今後、入学者の目標値 60 名を達成できる様努力する。

(3) 平成 25 年度事業計画

①教育改革

■授業時間変更

- 週 5 日制から土曜日の授業を復活させ週 6 日制とした。

■普通科の再編

- ・スポーツコース内にサッカー専攻を設置。平成 27 年度より女子ハンドボール専攻を設置する。

②業務改善

■校長・教頭による生徒募集の強化

- ・生徒募集の訪問活動を、校長・教頭を中心に実施した。平成25年度から初めて募集担当職員を法人本部で雇用し活動していただいた。伊都地方の中学・塾を今迄以上に訪問した。地道な生徒募集活動の他、地元の高野山中学校から入学した生徒には授業料減免の措置を講ずる他、就学支援金制度の代わりとして町より補助金50万円の増額が決定。

③投資的事業

■スクールバスの運行

- ・紀の川筋からの生徒募集を企画し、スクールバスを運行。平成25年度利用生徒18名。平成26年度利用生徒22名の他、寄宿舍生が高野町外の病院へ通院する際や帰省の折、片道500円で利用出来る事も可能で好評である。

■通信教育制度の検討

- ・平成27年9月開設を目指し、和歌山県総務学事課と相談中。

(4) 事業の概要

①教育に関する取り組み

■普通科・宗教科における教育内容

- ・普通科特別進学コース、自己探求コース

普通科特別進学コースでは演習の時間を設け、個別指導を重点におき、自己探求コースにおいて、数学では公文式教材を使用し個別指導、国語は漢字能力検定の教材を使用し個別指導、英語ではインターネットを利用した個人指導を行なう。英、数、国に関しては3学年共、習熟度別にクラスを編成して授業を実施している。

また、1学年の基礎学力未定着者に対しては、「学び直し」の補習を、3年生も希望進路に向けて、放課後や土曜日を利用し、英、数、国と福祉（介護福祉士国家試験対策）の補習授業を実施した。長期休暇には各学期に定期考査の基準点に到達していない生徒を対象に、補習や進学・就職対策講座を実施している。

・普通科 介護福祉士養成コース

介護福祉士養成コースでは、社会福祉実習（施設実習を含む）を通して、高齢者の方や障害を持っている方々とのふれ合い方や援助の方法、現在の福祉の制度や状況を学んでいる。

今年度をもって在籍生徒が卒業。

・普通科スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）

スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）では、体育理論やスポーツⅡの授業において、それぞれの競技をより専門的に学び、技術の向上は勿論、指導方法なども体験の中から学んでいる。

・宗教科

宗教科では、高等教育の基本となる主要科目をはじめ、高野山ならではの宗教授業を展開している。高野山真言宗の教えの下、仏教の専門知識の習得を通じた豊かな人格形成を目指し、四国遍路や高野山内での法要の体験、梵習字やご詠歌の学習・布教の実習などの体験を実施した。また、精神の錬磨と幅広い視野の涵養を企図し、書や茶道、座禅を通した礼儀作法の教育も行なっている。

■国際交流

平成25年5月22日（水）タイ国 カーン・ユン大学より12名来校。

■学校行事

年間の主な年間行事は以下のとおり。

1. 音楽法会 5月25日（土）
2. 青葉祭前夜祭 6月14日（金）
3. 青葉祭 6月15日（土）
4. 四国遍路 10月 5日（火）～ 9日（土）
5. 南嶺祭（文化祭） 10月26日（土）、27日（日）
6. 明神社大祭 10月16日（水）
7. 追悼法会 11月23日（土）

■平成25年度進学実績

複数の合格者があった場合のみ、()内に合格者数を表記した

・4年制大学・短期大学

新潟大学医学部、名古屋産大(5)、阪南大(2)、大阪観光大(3) 大阪経済法科大(2) 金沢学院大、上武大、高野山大(5)、プール学院大(3)、大谷大、大正大、大阪女子短期大学、長浜バイオ大、大阪芸術大

・専門学校

ESP 学園、履正社医療スポーツ専門学校(2)、日産自動車大学校、辻製菓専門学校、関西メディカルスポーツ学院、ECC コンピューター専門学校、トヨタ神戸自動車大学校、大阪自動車整備専門学校、辻調理師専門学校、小出美容専門学校、日本工学院専門学校、池見東京医療専門学校、埼玉県立熊谷高等技術専門校、高野山専修学院

・就職

日本港運株式会社、大阪富士工業株式会社和歌山支店、たから株式会社、株式会社ポアール、海上自衛隊、久米建設株式会社、神綱物流株式会社加古川事業所

②生徒募集に向けた取り組み

大阪・奈良・和歌山方面各中学校、学習塾への訪問。各中学校・塾、全国高野山真言宗寺院(他宗派寺院含む)へのダイレクトメール郵送。また、以下のような募集活動を実施した。

■学校説明会

・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会 (9月17日)

伊都地方中学校合同説明会 (10月 8日)

泉南地区中学校合同説明会 (10月18日 ※資料参加)

高野山中学校 説明会 (11月11日)

・学習塾、各種団体主催

関西私塾教育連盟主催教育セミナー (9月30日)

五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会 (10月14日)

和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会（11月10日）

泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会（11月4日）

全寮協主催「寮のある学校説明会」

名古屋（11/8）、大阪（11/9）、横浜（11/15）、東京（11/16）

■体験入寮・体験スクール

対象者に施設・設備を開放し、各コースの詳細説明や、実際に一日寄宿してもらい寮生活を体験して頂く事業。第1日目午後から寮見学と宿泊体験。翌日は学校説明会で各学科、コースのプレゼンテーションにより、本校の教育内容を判りやすく提示した。イベント告知の展開は、中学校、塾への訪問の際、当イベントのチラシを持参。過年度の資料請求者へも案内を送付した。

第1回：平成25年 8月24日（土）・25日（日）

第2回：平成25年11月 9日（土）・10日（日）

第3回：平成25年12月 7日（土）・ 8日（日）

参加者：62名（3回の合計）

■公開授業

実施日 平成25年11月23日（土）

■公開実力テスト

① 大阪：平成25年11月30日（日） 8名

② 和歌山：平成25年12月 8日（日） 52名

■教育講演会

大阪、奈良、和歌山の学習塾（約1,300件）にイベント案内を送付。本教育講演会は、一度に多数の塾関係者と親交を保ち、本校の教育内容を披瀝する事の出来る機会である。

・第1回 大阪

日 程：平成25年9月17日（火）

会 場：ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー8階

対 象：大阪・奈良塾関係者

講 師：岡部観栄 先生

講 題：「日本人のころ」

参加者数：１１８名

・第２回 和歌山

日 程：平成２５年９月２４日（火）

会 場：和歌山ビッグ愛

対 象：和歌山県内塾関係者

講 師：根岸和政 先生

講 題：「生徒のやる気を引き出す心理的アプローチ」

参加者数：２８名

■テレビ広告

和歌山テレビ制作で私学３校による学校紹介番組を放映

平成２５年１１月 ３日（日）１２：００～１２：４５

平成２５年１１月１３日（水）１９：００～１９：４５

■テレビ放映

平成２５年６月３０日（日） 読売テレビ ほんわかテレビ

■新聞記事掲載

平成２６年１月１５日（水）～１月２０日（日） 朝日新聞全国版教育欄

■平成２６年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専 願	61	58	57
併 願	35	35	6
合 計	96	93	63

■通信教育制高校の検討

高野山高校の経営基盤を安定させるために必要不可欠な新規事業として、全国広域通信制の導入の検討を行なった。通信教育制の導入により、宗門立の高校にふさわしい「心の教育」を重視した指導で、不登校児等も含めた新たな生徒募集の領域の拡大を企図している。

4. 高野山幼稚園

平成 21 年度から、和歌山県ならびに高野町との協議・調整のもとに行なってきた、保育所施設における幼稚園児の教育と保育所児の保育との合併事業は、平成 24 年度から 25 年度まで 2 年間更新され、最終年度になった。

宗教にもとづく「教育」と行政の義務である「保育」という、目的の異なる双方を行なうという点で、課題は常に生じているが、これまでの成果をもとに、その都度一つずつ解決をはかっている。長期的な展望に基づいて、よりよい形の運営形態を構築していくため、保育所事業の委託者である高野町との話し合いを定期的に行い、将来的には「認定こども園」として申請する方針である。

今後の幼稚園については、理事会・評議員会で議論を重ね、平成 26 年度以降当面は公設民営の形態で指定管理者として「高野山こども園」の運営を請負うことと幼稚園は休園とすることを決定した。

(1) 事業の概要

①教育に関する取り組み

■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の 5 領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

■預り保育の実施

幼稚園児に対して月曜日～金曜日の午後 3 時から午後 5 時までと土曜日の午前中を預り保育の時間に当て、保育時間の確保を実施してきた。保育者の人材確保は充分とはいえないが、保育士と幼稚園教諭が相互補助をしてきめ細かい保育をしてきた。

■宗教教育

宗門に属する幼稚園教育と公に属する保育という性格の違いから、平成 21 年度以来、園児たちの反応に留意しつつ、共同で教育・保育を行う場合の行事等の精選をおこなってきた現場の努力と、高野山という土地柄もあってか、宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育内容については、保護者からも好評を得ている。宗教教育については今後公設民営形態の高野山こども園においては習俗の範囲内で進めていくことになる。

②運営に関する取り組み

■和歌山県・高野町との協議

平成25年度は、前年度に引き続き、和歌山県・高野町と協議して指導を受けながら、業務・運営に関する事項の随時改善につとめてきた。

■施設・設備の環境整備

高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を指摘してきたが、すべてが改善されたわけではなく、今後も高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を要望することが必要であろう。

(2) 今後の課題

■「高野山幼稚園」と「高野山保育園」の一体化

高野町との幼保一体化事業を協議により進めてきたが、平成25年2月15日付での高野町よりの提案を受けて、高野町との協議と検討を進め、以下の方針で「高野山幼稚園」と「高野山保育園」の一体化を進めることになった。

- ・「高野山こども園」（保育所型）として平成26年4月1日開所する。
- ・「高野山こども園」の設置は高野町とし、運営を学校法人高野山学園が行なう公設民営方式とする。

この方針に基づき、当面は高野町の設置する「高野山こども園」を学校法人高野山学園が運営する公設民営方式とすることが理事会でも承認され、平成26年4月1日より新たにスタートする予定である。

理事会・評議員会では、高野町と学園の将来を見越した「こども園」の運営について検討し、園の独自性や創意工夫の必要性が認識されている。新しい建物の建設を含め5年以内に結論を出すことが必要との認識が共通のものとなっている。

Ⅲ. 財務状況

1. 平成25年度の財務状況

高野山学園における平成25年度の財務状況において、特筆すべき点は、平成24年度決算に対して収入が補助金収入を除き全ての科目で減少したことである。平成25年度の消費支出超過額は3億1千万円であり、これは学生生徒納付金収入の3千万円の減少が大きく、学生生徒の確保には至っていないことを表している。

(1) 資金収支計算書

①資金収支計算書の概要

■資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。32ページの資金収支計算書では、平成24年度決算と平成25年度の当初予算および平成25年度補正予算、さらに平成25年度決算を対比する形で表している。

②平成25年度の財務状況

■支払資金の増加

平成25年度決算における次年度繰越支払資金は、平成24年度決算よりも260万円の増加となっている。今後は中期資金計画を作成し、毎年獲得する学生生徒数の目標を定めて、経営改善に向けた取り組みを行っていくことが必要とされる。

(2) 消費収支計算書

①消費収支計算書の概要

■消費収支計算書について

消費収支計算書は、当該会計年度における消費収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の損益（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。33ページに掲載した消費収支計算書では、平成24年度決算と平成25年度の当初予算および平成25年度補正予算、さらに平成25年度決算を対比している。

②平成25年度の財務状況

■消費収入と消費支出の減少

平成25年度決算では、平成24年度決算と比して、消費収入が9,400万円の減少、消費支出が1億1,200万円の減少となっている。この点については、支出の圧縮努力はしているが、根本的な問題である学生数の減少に歯止めがかかっていない。消費収入の減少は、主に寄付金収入が7,300万円減少したことがあげられる。消費支出の減少は資産処分による支出がなくなったことによる。うち消費支出には、減価償却費の1億8,000万円が含まれている。この減価償却費は約25年間継続して計上することが予想される。

(3) 貸借対照表

①貸借対照表の概要

■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、消費収支差額）で表す。34ページに掲載した貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

②平成25年度の財務状況

■資産の減少

平成25年度末では、資産（固定資産）が2億6,100万円減少している。この減少は、建物の減価償却（1億2,000万円）及び特定預金の取崩し（1億円）によるものである。平成25年度は退職者がいなかったことにより、退職給与引当金3,600万円が減少した。昨年度に比して支出超過額は3億1,300万円増加している。学園の財務状況の実態としては今年度を転機に中期事業計画の策定が求められる。

2. 高野山学園 資金収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 (単位：円)

収入の部	①H24 決算	②H25 当初	③H25 補正	④H25 決算案	⑤差異 (①-④)
学生生徒等納付金収入	288,248,290	243,079,500	253,609,500	257,729,950	30,518,340
手数料収入	4,866,285	5,222,000	5,222,000	5,576,990	△710,705
寄付金収入	191,912,370	156,500,000	157,100,000	143,083,000	48,829,370
補助金収入	142,800,388	122,604,000	123,104,000	157,022,990	△14,222,602
資産運用収入	31,411,520	15,990,000	15,990,000	21,613,431	9,798,089
事業収入	52,882,715	46,470,000	46,470,000	50,307,183	2,575,532
雑収入	42,814,816	2,240,000	2,871,800	7,498,012	35,316,804
前受金収入	50,760,000	49,715,000	49,715,000	92,983,000	△42,223,000
その他の収入	229,837,426	301,627,000	121,627,000	210,642,154	19,195,272
資金収入調整勘定	△106,852,642	△62,125,000	△62,095,000	△66,364,379	△40,488,263
前年度繰越支払資金	507,305,337	450,437,785	509,657,228	529,005,373	△21,700,036
収入の部合計	1,435,986,505	1,331,760,285	1,253,340,478	1,409,097,704	26,888,801
支出の部	①H24 決算	②H25 当初	③H25 補正	④H25 決算案	⑤差異 (①-④)
人件費支出	500,556,568	517,761,266	529,036,650	503,385,267	△2,828,699
教育研究経費支出	148,224,341	198,281,500	222,308,500	168,826,245	△20,601,904
管理経費支出	111,579,165	112,708,000	132,673,000	104,296,323	7,282,842
借入金等利息支出	1,287,744	1,053,561	1,053,561	1,053,561	234,183
借入金等返済支出	7,767,708	8,001,891	8,001,891	8,001,891	△234,183
施設関係支出	5,147,427	0	40,000,000	7,050,189	△1,902,762
設備関係支出	25,258,795	18,867,500	29,397,500	14,334,234	10,924,561
資産運用支出	95,702,820	51,505,500	41,705,500	62,833,234	32,869,586
その他の支出	39,829,507	40,100,000	21,541,400	23,882,605	15,946,902
〔予備費〕	0	1,000,000	4,500,000	0	0
資金支出調整勘定	△28,372,943	△35,400,000	△35,400,000	△16,170,709	△12,202,234
次年度繰越支払資金	529,005,373	417,881,067	247,973,126	531,604,864	△2,599,491
支出の部合計	1,435,986,505	1,331,760,285	1,253,340,478	1,409,097,704	26,888,801

3. 高野山学園 消費収支計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 (単位：円)

消費収入の部	①H24 決算	②H25 当初	③H25 補正	④H25 決算案	⑤差異 (①-④)
学生生徒等納付金	288,248,290	243,079,500	253,609,500	257,729,950	30,518,340
手数料	4,866,285	5,222,000	5,222,000	5,576,990	△710,705
寄付金	216,220,867	156,500,000	157,100,000	143,083,000	73,137,867
補助金	142,800,388	122,604,000	123,104,000	157,022,990	△14,222,602
資産運用収入	31,411,520	15,990,000	15,990,000	21,613,431	9,798,089
事業収入	52,882,715	46,470,000	46,470,000	50,307,183	2,575,532
雑収入	50,125,542	2,240,000	2,871,800	43,977,517	6,148,025
帰属収入合計	786,555,607	592,105,500	604,367,300	679,311,061	107,244,546
基本金組入額合計	△13,856,277	△ 16,000,000	△ 27,500,000	△29,351,353	15,495,076
消費収入の部合計	772,699,330	576,105,500	576,867,300	649,959,708	122,739,622
消費支出の部	①H24 決算	②H25 当初	③H25 補正	④ H25 決算案	⑤差異 (①-④)
人件費	477,081,281	532,294,051	540,486,650	503,153,487	△26,072,206
教育研究経費	316,782,700	379,681,500	414,708,500	330,562,423	△13,779,723
管理経費	137,743,745	151,608,000	165,913,000	128,380,504	9,363,241
借入金等利息	1,287,744	1,053,561	1,053,561	1,053,561	234,183
資産処分差額	141,221,007	0	0	93,299	141,127,708
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
〔予備費〕	0	4,500,000	4,500,000	0	0
消費支出の部合計	1,074,116,477	1,069,137,112	1,126,911,711	963,243,274	110,873,203

当年度消費収入超過額	0	0	0	0	0
当年度消費支出超過額	301,417,147	493,031,612	550,044,411	313,283,560	△11,866,413
前年度繰越消費支出超過額	647,618,059	951,240,683	905,559,239	949,165,110	△301,547,051
基本金取崩額	0	0	0	0	0
他部門繰入金収入	0	0	0	0	0
他部門繰入金支出	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	949,035,206	1,444,272,295	1,455,603,650	1,262,448,676	△313,413,470

4. 高野山学園 貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日 (単位 : 円)

資産の部	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,085,695,838	9,346,918,745	△261,222,907
有形固定資産	5,488,521,470	5,650,086,426	△161,564,956
土地	1,319,555,340	1,319,555,340	0
建物	3,025,615,938	3,147,266,395	△121,650,457
その他有形固定資産	1,143,350,192	1,183,264,691	△39,914,499
その他の固定資産	3,597,174,368	3,696,832,319	△99,657,951
流動資産	552,554,270	569,021,150	△16,466,880
現金預金	531,604,864	529,005,373	2,599,491
その他流動資産	20,949,406	40,015,777	△19,066,371
資 産 の 部 合 計	9,638,250,108	9,915,939,895	△277,689,787
負債の部	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	483,634,164	529,131,284	△45,497,120
長期借入金	25,285,827	32,619,044	△7,333,217
退職給与引当金	452,154,177	488,769,540	△36,615,363
長期未払金	6,194,160	7,742,700	△1,548,540
流動負債	162,073,242	110,333,696	51,739,546
短期借入金	7,333,217	8,001,891	△668,674
その他流動負債	154,740,025	102,331,805	52,408,220
負 債 の 部 合 計	645,707,406	639,464,980	6,242,426
基本金の部	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	9,894,049,311	9,864,839,601	29,209,710
第 3 号基本金	202,442,067	202,300,424	141,643
第 4 号基本金	158,500,000	158,500,000	0
基 本 金 の 部 合 計	10,254,991,371	10,225,640,025	29,351,346
消費収支差額の部	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	1,262,448,676	949,165,110	313,283,566
消費収支差額の部合計	△1,262,448,676	△ 949,165,110	△313,283,566
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	9,638,250,108	9,915,939,895	△277,689,787